

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KGI) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 適切な特定プロジェクトセンターの立ち上げ及び見直しにより共同研究を推進する	→特定プロジェクトセンター立ち上げ・見直し状況	B	B	B	B	/
2. 研究会の開催によって教員の研究分野の相互理解を増進する	→研究会開催回数	B	B	B	B	/
3. 2010年度よりドーナツアワー(院生と教員のコミュニケーションをはかる場)の開催等を通して院生と教員の間での開かれた関係を構築する	→ドーナツアワー開催回数	A	A	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度は、7つの特定プロジェクト研究センターが活動を続け、それぞれ目的にあわせた研究成果を上げて、共同研究の実をあげている。研究成果等については、研究科内で発表の機会を設けることで、総合政策に関する共通理解を深め、新たな共同研究を推進する。
目標2	2012年度は、学外から招いたゲストスピーカーや新任教員を中心に講演会を計10回、新任教員研究発表会を計9回、英語(ELP)教育勉強会(FD共催活動)を1回開催して、相互の研究活動への理解を深めた。今後はさらにこれらの研究会をプロモートして、異分野の教員間の共同研究を推進していく予定である。
目標3	ドーナツアワーや学部研究会主催の各種講演会等(上記参照)を通じて、研究科内の議論を活性化させるとともに、学外に向けてはリサーチ・コンソーシアムやリサーチ・フェア等を通じて研究成果の公表に努力する。
備考	現在、2010年度に行ったカリキュラム改正の結果を評価し、それに基づくカリキュラムの大幅な再編を検討している。とくに学部の3年卒業制度等を利用した、学部と大学院教育の一体化による大学院教育の活性化が望まれる。